一等三角点シリーズ（與蔵峠編）

與蔵峠（よぞうとうげ）

登山日：2012 年 9 月 17 日（月）　　大和工営一等三角点の会

（冠字番号　呂　5 ）

成果	X=-129039.147m	
	Y=- 62557.566m	
	標高	702.71m

世界座標系「測地成果 2011」

点の記抜粋	選点	明治 27 年　5 月 23 日	選点者	真田義啓
	造標	明治 27 年　6 月 22 日	造標者	高井鷹三
	埋標	明治 27 年　6 月 22 日	埋標者	高井鷹三
	観測	平成 8 年　9 月 18 日	観測者	寺地孝夫
	（備考）高度基準点測量			
	所在　山形県飽海郡平田町大字山元字奥山（107 林班へ小班）			

コースタイム

登山口		與蔵峠三角点		與蔵沼		まぼろしの滝		登山口
（羽根沢口） 9:15	1.8km 0:50	10:20 10:50	2.1km 1:10	12:05 12:25	1.7km 0:50	13:30 14:10	5.6km 3:30	（羽根沢口） 18:00

鮭川村が誇る　与蔵峠･与蔵沼の伝説とまぼろしの滝の探訪へ･･

塩野原基線の 2 次増大点である一等三角点與蔵峠は、山形県鮭川村の西部・出羽丘陵の中央部に位置する。この地はまた「トトロの木」と共に鮭川村が誇るブナの原生林が群生する与蔵峠とまぼろしの滝群がある自然豊かなエリアである。

今回の山行は、「6 月と 8 月に山形県が募集した『与蔵高原・まぼろしの滝群ツアー』に応募したものの参加人員不足で 2 度も中止になった。」と悔しがる川崎市在住の「やまがァある」2 名の参加を得て 7 名での山旅となった。

鮭川村小杉にある通称「トトロの木」　推定樹齢 1000 年

「敬老の日」は 80 歳からにして! !･･･

川崎市在住の『やまがァある A&B 』2 名は前日に新庄にやって来た。その日は杢蔵山に登ったとのことで、幻に終わった『与蔵高原・まぼろしの滝群ツアー』の踏破に意欲満々であった。

会社に 7 名（ゲスト 3 名）全員が集合し、当日の行程を説明すべく、「本日は敬老の日で祝日ですが・・」と話し出したら『やまがァある A 』から**「敬老の日は 80 歳からにして!!・・」**との言葉に、一同が爆笑してしまった。折角なので会社の玄関前で参加者の証拠写真をカメラに納め、予定時間より 1 時間遅れの 8:00 出発となった。

コンビニでの買い物を済ませ、鮭川村の秘湯「羽根沢温泉」街を経由し、現地の『登山口』には 9:00 に到着した。

全員が揃ったところで、「使用前」の証拠写真を 1 枚!!

与蔵高原とまぼろしの滝群を目指して羽根沢口から入山･･･

一等三角点與蔵峠を含む与蔵高原、それにまぼろしの滝群の探訪は、決して難しいコースではない。本来は鮭川村大芦沢から入山し、まぼろしの滝、與蔵沼を経て一等三角点に達して鮭川村羽根沢口に下山する予定であった。しかし、大芦沢からの林道が災害復旧工事で「通行止め」との情報があり、敢(あ)えて羽根沢口を起終点とするピストン・コースを選択した。

与蔵峠へは、全員が初めてであり、事前に準備した 1/2.5 万の地形図や山形県最上地方事務所・鮭川村発行のパンフレット地図を頼りに、私達にとっては未知の山道を歩くことになった。

鮭川村にある秘湯「羽根沢温泉」街を経由し・・

与蔵峠を目指して登山を開始したが・・・

“まぼろしの登山口”･･･

「羽根沢口」の登山口らしき地点に到着した。駐車スペースも結構広い場所である。しかし『与蔵高原・まぼろしの滝群』への玄関口を示す「登山口」の看板らしきものは何も見えなかった。

駐車スペースの傍らに、庄内と最上を結ぶ古道の存在を示す看板が設置されている。そんなこともあり、一抹の不安を抱えながらも登山道らしい場所へと進んで行った。しかしそれは伐採用に重機が通ったものであり、道形はやがて藪(やぶ)に消されていた。そこで上空の高圧送電線を頼りに高度を稼ぐことにした。庄内と最上の郡界の尾根に取り付き、その尾根を辿(たど)って登れば目指す一等三角点に出会える筈である。20 分程藪漕(やぶこ)ぎしたところで、『やまがァある B 』が**「突然、アスファルトの道路なんか現れたら楽しいんじゃない!?」**との声を発した。私は数歩進んで前方を眺めた。すると、藪の隙間から沢に架かる橋と前後に延びる白い「ガードレール」を目にした。

地図にない林道と傍らの登山口の道標の前に出た!!

階段の奥にも、登山口を示す看板もあった!!

ブナ原生林の宝庫、与蔵高原を闊歩する･･･

天空を覆い隠すミズナラの大木が迫る

およそ 20 分の「ロスタイム」となった。準備した地形図とパンフレット地図にもない立派な林道と白板に刻まれた「羽根沢登山入口」の文字が眩しかった。

アスファルト道路ではなかったが『やまがァある B 』が期待を込めて「予言」した言葉が現実のものとなった。道のない藪漕(やぶこ)ぎから解放された安堵感も手伝い、汗が治まる程度の休憩をとった。

改めて林道脇の登山口の階段を登り切ると、「与蔵峠登山口」と白文字で書かれた看板が出迎えてくれた。ここからはさほど高低差のない尾根道がブナの原生林の中に続いている。『やまがァある A 』から、「さすが東北の山だわ!?」との感嘆の声があがった。

一等三角点與蔵峠に到着 ！！

与蔵高原の尾根道は、ブナの原生林に覆われていて直射日光もさほど受けない。加えて適度なそよ風が谷底から吹き上げてくる。気持ちも昂ぶり歩幅も広くなる。実に爽快な高原のそよ風を堪能しながら闊歩(かっぽ)すること 50 分。意外にあっけなく一等三角点與蔵峠に到達した。

親切にも一等三角点の立派な案内板がある

登山道少し登った処に目指す一等三角点があった

賽銭なのか、10 円玉 2 個と 1 円玉 1 個が置いてある

一等三角点與蔵峠を前に、記念の証拠写真 ！！

一等三角点與蔵峠から与蔵沼へ

一等三角点與蔵峠の柱石を自らの脳裏と共にしっかりカメラにも収めた。これで山行の大きな目的は達成できた。しかし今回は「伝説の与蔵沼」と「まぼろしの滝群」も訪ね歩くことを計画していた。会社からの出発時間が１時間遅れだったことや、『まぼろしの登山口』からの 20 分のロスタイムも時間的に気になっていた。だが、標高 700m足らずにして原生林に流れる稜線の涼風(すずかぜ)に誘われるように、私達は「伝説の与蔵沼」へと歩み出していた。時刻は 10:47 であった。

整備の行き届いた登山道とブナ林の中を歩く

登山道はブナの主幹、枝葉が頭上を覆い隠す

高圧送電線の彼方には日本海が望めた

みはらし台からまぼろしの滝の谷底を見下ろす

与蔵高原を代表するブナの巨木にも出会えて

三角点から 1:10。もうすぐ与蔵沼に到着です!!

伝説の与蔵沼に到着 ！！

登山と云うよりはハイキング気分で歩けた。与蔵沼には 12:05 に到着した。出羽丘陵のブナの原生林の中に、エメラルドグリーンに浮び上がる与蔵沼は幻想的であり、心が癒やされた。与蔵沼の伝説については持参したパンフレットに記載があり、次のように紹介されている。

与蔵峠・与蔵沼の伝説

昔、峠の麓の村に与蔵という炭焼きがいて仲間と二人でこの峠で炭を焼いていた。ある日の昼飯時に谷川で捕ったイワナを二尾おかずにすることにし、仲間は谷川に水を汲みに行き、与蔵はイワナを焼いていた。イワナはよい匂いをたててうまそうに焼けたが仲間はなかなか戻って来ない。我慢しきれなくなった与蔵は自分の分の一尾を食べてしまった。ところがあまりにも美味かったためたまらず仲間の分も食べてしまった。するとひどく喉が渇いてきたため急いで谷川に駆け降りて、手で水をすくって何杯も飲んだが飲めば飲むほど喉が渇いてたまらない。水を汲むのに手間取った与蔵の仲間が炭焼き小屋に戻ってみると与蔵の姿が見当たらない。そこで与蔵の名を呼びながら谷の方に下りていくとそこに今までなかった大きな沼ができていた。仲間が大きな声で「与蔵やあい」と呼ぶと沼の真ん中に大きな波がたって「おうい」と返事をして大きな蛇が鎌首を持ち上げた。仲間の分のイワナまで食べてしまった与蔵は喉が渇いて大蛇となり大きい沼をつくって入り水を飲んでいたのである。それからこの峠を与蔵峠、沼を与蔵沼というようになったといわれる。

（安彦好重著「山形県の地名伝説」より）

与蔵沼

与蔵峠：山形県最上郡鮭川村と飽海郡平田町の境界　標高 660m
与蔵沼：与蔵峠の麓　面積 3,880㎡（東西 138m、南北 58m）
水深4.1m

釣竿持参の人もいて・・、まずは証拠写真を!!

与蔵沼を眺めながらの、食事の準備・・

出羽丘陵：庄内と最上の郡界に佇む與蔵沼

水面は天然の鏡となって景色を映し出しいる

谷底のまぼろしの滝へ・・・

与蔵沼を 12:25 に出発し、羽根沢口と大芦沢口への分岐点には 5 分程で到着した。当初予定時刻より 2 時間遅れになっていた。このまま羽根沢口に戻れば 2 時間後には下山できる。当日の山形の「日の入時刻」は 17:44 であり、30 分の薄明時間を加えて 18:14 までは行動可能と云う計算になる。（蛇足ながら日没 1 時間後は天文薄明と云い、一番星が見え始める時刻である。）

だがまぼろしの滝群と共に「与蔵沼の伝説」にある「イワナ」との遭遇が出来れば・・。と「釣竿」まで持参して来たので、必然的に大芦沢川の源流に続く登山道を降りて行った。

まぼろしの滝、大芦沢口分岐点を示す道標

モリアオガエルの沼

分岐点から下る登山道は北斜面になっているため、冷気さえ感じるような静寂な樹林帯を歩く事となった。登山道は少し荒れていて下刈りの痕跡はなかった。

それでも、尾根から 20 分程で「モリアオガエルの沼」に到着した。沼は連日の好天で満水時の水深より 30㎝ 以上は少なく、登山道から遠くに後退した水面を見ることができた。モリアオガエルは山地の森林に生息し、繁殖期は 4 月から 7 月と云われている。訪れたのは 9 月中旬であり、お目に掛かる事はなかった。

水辺が後退した モリアオガエルの沼 （枠内はご本人!?）

まぼろしの滝 との出会い

分岐点から 50 分程下ったところで「まぼろしの滝」の１つである「大滝」の看板に辿り着いた。はやる気持ちを押え、枝沢との合流点まで降りた。本流の沢には「車道」かと思うほどの頑丈な木橋が架けられていた。『白猿の滝・夫婦滝』の案内板に導かれて、右岸の枝沢を登っていった。数分ほどで「白猿の滝」に到着した。時期的に水量が少ないものの、真下で見上げる滝とその轟音には迫力があり胸の奥までその鼓動が響いてくる。このとき時刻は 13:40。日没の時間を考えると、ほかの滝巡りや楽しみにしていた「岩魚（いわな）釣り」は、やはり断念せざるを得なかった。

まぼろしの滝「白猿の滝」の下で・・

帰路を急ぐも、アクシデントが・・・・

日没まであと 3 時間 30 分。慌てることはないが、急ぐ必要はあった。軽食と休憩をとり、14:10 に降りてきた道を引き返すことにした。

ところが「モリアオガエルの沼」を目前にした頃から、私（筆者）の左足に違和感が出てきたのである。枯枝(かれえだ)を杖代わりにして登るようにした。が、だんだん足が痙(つ)るような苦痛に襲われてくる。「なぜだろう?」と思いを巡らせる。確かに心当たりはある。この日は朝食と昼食を含めておにぎり 3 個しか口にしていなかった。

大芦沢川の谷底から、いきなり急登となる・・

「そういうのを シャリバテ って言うんだョ･」

当然、私の歩行の異常さに周囲はすぐ気づいた。私は、与蔵沼の分岐点の手前の平地で休憩を申し出だ。『やまがァある A 』が**「そういうのを、『シャリバテ』って言うんだョ !? 」**と言ってゼリー状の行動食と『ツムラ 68』という漢方薬を差し入れてくれた。また、『やまがァある B 』は痙攣(けいれん)した足を甲斐甲斐(かいがい)しくも「マッサージ」までしてくれた。気持ちを落ち着かせ、これまた『やまがァある B 』のステッキを奪い取るような格好で借用し、尾根の分岐点に 15:43 に辿り着くことが出来た。ここからは入山口まで与蔵高原の稜線を 2 時間かけて歩く事になる。

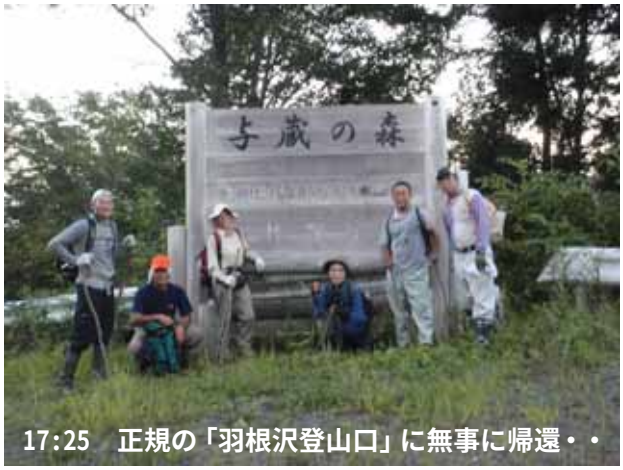
日没と共に 登山口に 無事に下山 ・・

さほど起伏のない稜線を私達一行は黙々と引き返して行く。『やまがァある A&B 』の「治療」が奏功して、「みはらし台」を過ぎる頃には足の調子も驚異的に回復してきた。もう少しで山行が終わる、という気軽さも手伝っていた事だろう。そして 17:25、登山口へ無事に到着できた。

私も還暦を迎えた。今回の山行は私にとっては「忘れられない想い出深い『敬老の日』となるに違いない。」と、しみじみ実感している。

15:43　与蔵沼への分岐点に到着・・

17:03　高圧電力線分岐に到着・・



17:25　正規の「羽根沢登山口」に無事に帰還・・

まぼろしの滝群について

まぼろしの滝群とは

「まぼろしの滝群」は山形県鮭川村曲川の大芦沢川源流部にあり、「大滝」、「白猿の滝」、「夫婦滝」、そして「湯沢の滝」の、4つの滝の総称である。

駐車場（登山口）の案内板

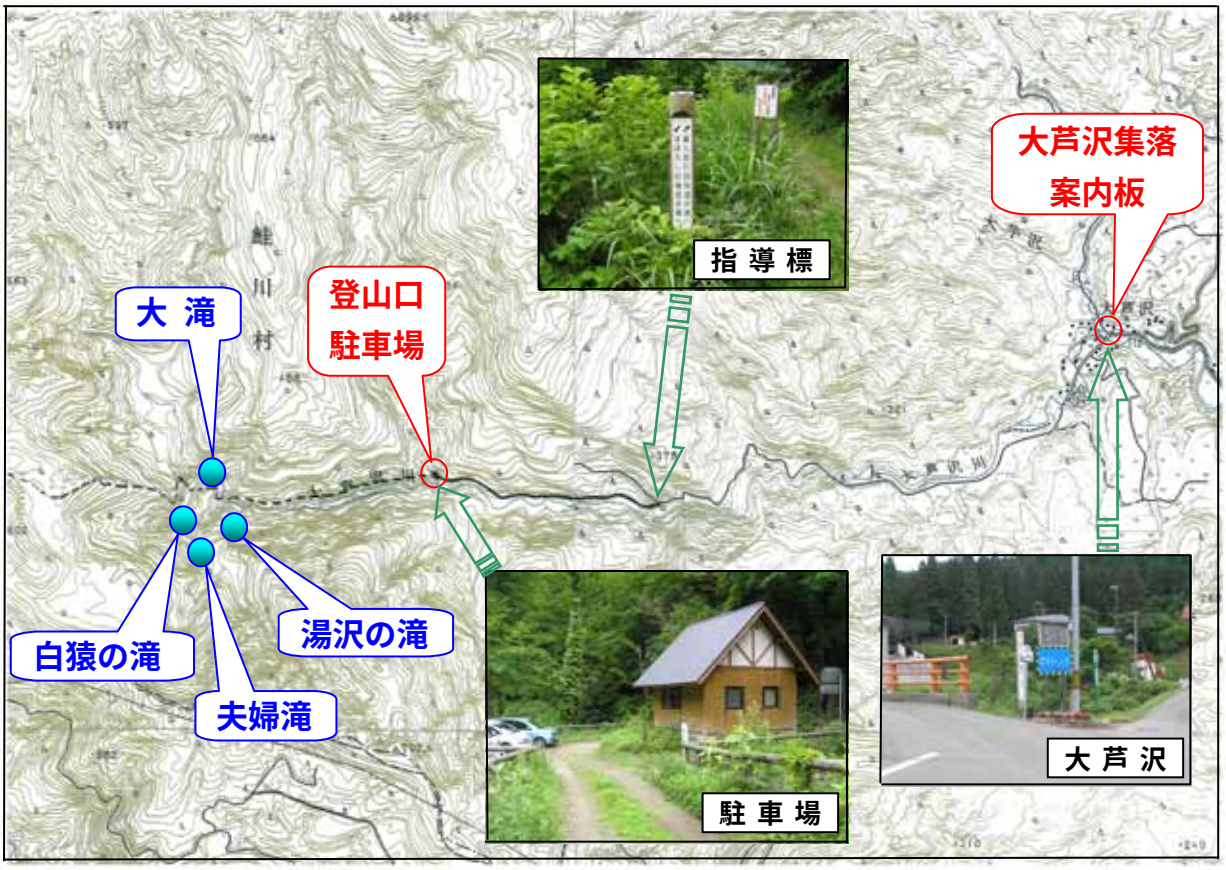
まぼろしの滝群の発見

鮭川村の一人の村民が50年以上前の少年の頃に見た朧気（おぼろげ）な記憶をもとに鮭川村の調査隊が探検を行い、平成5年に4つの滝の存在を確認した。地元の人でさえ知らなかった滝群は、与蔵沼への登山道の整備と相俟（あいま）って、山形県内はもちろん、広く全国の愛好家の間で知られるようになった。

まぼろしの滝群へのルート

新庄駅からは、車で鮭川村日下、大芦沢集落を経由して60分程で駐車場に着く。駐車場からは徒歩約30分で「まぼろしの滝群」のスポットに到着できる。また、まぼろしの滝群は、季節や川の水量の違いにより個性豊かな表情で迎えてくれる筈である。

まぼろしの滝群の位置



2013 年 6 月 22 日訪問

まぼろしの滝群との出会い

大芦沢川の源流部にあるという「まぼろしの滝群」との出会いを求め、このパワー・スポットを尋ねて歩いた。折しもその日は、日本の富士山が世界遺産として正式に登録が決定された。

本流の最上部にあり、4 つの滝では一番雄大である

水量で、中段に猿が腰掛けているように見える!?

水量で、2 本の滝が並んで落ちてくるんだって!?

落差 120mの滝。しかし水量が足りない日でした